

令和元年度 第1回地方創生推進会議 要録

日 時：令和元年7月8日（月） 19：30～21：20

場 所：郡上市役所本庁舎2階第1会議室

出席者：（委員）

井俣 潤、小池 敏、出崎善久、兼山吉枝、松山誠美、柘植和正、奥田好紀、
鈴木 登、稲葉光紀

（事務局）

置田市長公室付部長、武藤

欠席者：佐藤まり、青木副市長

（開始 19時30分）

1. 開会

（事務局により開会）

- ・委員の交代について報告
- ・事務局あいさつ

この地方創生推進会議では昨年度は改定版についてのご意見もいただいたが、主に市の総合戦略の取り組みについての検証や、また、今年度は総合戦略の計画期間5年の最終年度となるので、第2期総合戦略の策定作業を進めることとなる。一昨年、昨年と年に2回ずつ会議を開催してきたが、今年度は4回、5回程度開催したいと思うのでご協力をお願いしたい。現在の総合戦略のなかで出てきた課題等を次期の総合戦略に生かし、課題を精査する中で新たな取り組みについても盛り込んでいきたいと考えているので、忌憚のない意見や提案をいただきたい。

2. 協議事項

（進行を委員長に交代）

- 1) 郡上市まち・ひと・しごと創生総合戦略の重要業績評価指標（KPI）について
 - ・平成30年度末進捗状況について
 - 資料に基づき事務局より説明
- 2) 第2期郡上市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定方針について
- 資料に基づき事務局より説明

意見等

委員①：次期総合戦略の策定において、こんなことを取り入れたらいいのではないかなど、委員のみなさんよりご意見ご提案を發表いただきたい。

商工会代表の立場で意見する。事業者にとって人手不足は大変なことだと認識してい

る。今できることはなんだろうと考える中で、外国人研修生を受け入れたりしている。また、働き方改革という話が出ており、中小企業では大手企業に太刀打ちできない部分もあるが、何もせず黙っていても人が集まらないのには理由があるかと思う。例えば、これまで男性が主体であった製造業者が女性社員を入れたいと思う時、トイレや更衣室を充実させるなど就職希望者に積極的にアピールできる体制が取れると良い。また、商工会や産業支援センターが社内改革について良いアドバイスなど支援できるような仕組みができると良い。これまでは会社の運営的な部分の支援が主体であったが、人材確保のための支援があっても良いかと思う。商工会が毎年開催する創業塾ではここ数年は参加者も減少していたが、事業を起こすにあたりお金も必要であり、銀行など金融のことを交えた指導を行なっている。郡上にとって創業は大事なことである。こういうものへの支援について、市としても応援してもらえると良い。

委員②：金融機関としての目線ではないが、働き方改革と言われる以前に、時間外勤務の削減について30%カットを目標に推進したが1年目で達成した。次に、直接は手当に影響ないが仕事の平準化と体調管理ということで、管理監督職の残業時間を減らすこととした。また、週末に『所さんの目がテン』という番組で郡上市が取り上げられているのを見たが、ああいった情報発信は良いと感じた。地域内の人との関係性はあまり分からないが、地域外から来た人たちの力を借りて一緒になってやっていくことが大事である。移住に魅力的な地域であることをアピールしてもらった。これは移住対策に取り組んできた成果だと思う。小さなことかも知れないが、そういったことに力を入れていくと郡上市の良いところが見え、移住、定住人口が増えてくると思う。

委員①：地域外から来る人を柔軟に受け入れていくことが大事だと思う。

委員③：観光産業で地域と共有しながら情報発信をする立場にあるが、働き方改革とお客さんサービスの間の業界である。業種柄、改元時の10連休であっても休業できなかった。今の1.5倍の従業員がいれば交替勤務により解決できることかもしれない。人材がいないというわけではなく、土日は働けないが平日は働きたいという就業希望者はいる。企業として儲けたい時間帯に人がいないということは事実である。理由には、放課後児童クラブに子どもを預け働きにくると、結局は収支がマイナスになるということがある。郡上市には子ども3人の世帯には手厚い支援があるが、育休後に復帰しても短時間勤務に配置する場所がない。会社の仕組みを整えれば良いのかと思うが、具体的にどうすれば良いのか分からない。会社内に保育所を作り働いてもらうことも1つの手段かと思う。何か良い支援があるのかもしれないが、そこまで手が回らないのが現実である。実際にパーキングエリアの売店では、平日の夜間や土日だけシフトに入ってくれるアルバイトの方がいるが、本職で残業時間が減り収入が減ったという人が2人いる。働き方改革の弊害なのではと感じる部分もある。また、近接にホテルが建設されることで、その対応としてやまと温泉を365日無休営業するという課題がある。定年後に継続雇用している人材も数名いるが、時給が課題である。市内の求人票を見てもどんどん上がっており、それに合わせないといけない境遇にある。従業員は現在65人程度いるが、60歳や70歳

を超える人も雇用している。そんな人も働きたい思いや同じ時給で働きたいという思いがある。例えば70歳以上を10人以上雇っていると、何らかの支援があるという仕組みがあっても良いのではと思う。郡上市は観光立市として取り組んでいるが、まだまだ先は長いのかなと感じる。東海北陸自動車道の四車線化に伴い通行量は増えたが、パーキングエリアの収益は減った。渋滞がなくなったので、売り上げが大きく落ちた。渋滞があるとパーキングエリアも賑わった。四車線化に期待して人員配置を整えたら、結果的に駄目だった。また、老後2,000万円問題の報道により消費者の財布の紐がきつくなったと思う。公的な発言は景気を左右するとの実感である。今後は郡上市が観光客の通過点にならないような施策が観光産業には必要だと思う。宿泊地の整備を含め、郡上市を最終目的地にさせられるかが大きな課題である。働く環境とそれを支える経済活動の両立ができないと人材も増やせない。八幡、白鳥の踊りだけではなく、もっと別の細かいところまで目を回してほしい。他地域も前向きに取り組んでいるが、市全体で連携し面白い取り組みができると良いと思う。

委員④：郡上には4月に配属されたところなので私的な意見となるが、ハローワークを通して就職していても郡上市の人材は市内での移動だけである。岐阜や大垣は他所から企業に入っており活性化している。郡上、高山、東濃地区は人が内部でしか動いていないという印象である。雇用対策協議会の高校生や新卒者へのアンケートによると、郡上市内の会社のことをよく知らないという結果が出ている。実際に就職された方からは、企業説明会を聞いて興味を持ったから入ったとの意見がある。親もよく会社のことを知らないのではないかと思う。市外から大学生をいかにして呼び込むのかということについて、郡上にはこういった会社があるということをもっとアピールしていかないと、人は集められないのではないかと思う。就職希望者は、過去は会社の規模や給料などを重要視していたが、現在は実際に会社がどんなことをやっており、福利厚生はどうなのかということにも着目している。業務だけでなく、福利厚生の部分もアピールしていくと良いと思う。また、他所から来た時にアパートなど住居の絶対数が少ない。一人で住めるところがもっとあると良いかと思う。

委員⑤：KPIのなかで「人農地プラン策定件数」と「担い手農家（認定農業者）における法人（化）数」について、平成30年度末で7法人となり目標を達成したとなっているが、現実的には第2種兼業農家は産業として成り立っていないと思う。今後は営農法人を含めて法人化することを考えていかないと大変なことになっていくのではないかと思う。個人事業主では病気等になると商売としてやっていけない。目標値はもっと高い数字にしないといけないのではないかと思う。また、バイオや小水力といった地産地消エネルギーという分野は郡上の代表的な戦略部門となる可能性があり、行政支援が必要だと思うのでどこかに盛り込めたら良いのではないか。

委員⑥：高齢化により、農地は危機的状況の地区もある。5年後はどうなるのであろうと心配もある。

委員⑤：水田は貸すこともできるのでまだ良いと思うが、それ以外、原野などは大変である。
7 法人ができたので良いとは思わない。

委員⑦：福祉分野代表という立場で発言するが、安心して暮らし続けられるということには、
支え合う地域ということが大事だと思う。地域によって課題は違い、各地域で課題を出
し合うことが、地域で安心して暮らせることにつながり、今以上に重要な取り組みにな
るのだと思う。社会福祉協議会が市から受託する高齢者生活支援体制事業においても、
以前は郡上市全体を対象にサポート人材を養成していたが少しも増加しなかった。今は
地域別に研修会行うことで、各地域に必要なとの理解を得られ、美並をはじめ和良
等他の地域でも支え合いの団体が立ち上がる取り組みがされている。例えば、高齢者一
人暮らしの家庭の電球を変えること、ストーブの灯油を入れることなど些細な援助をす
ることが大事であり、そういった援助団体を作りましょうという取り組みをしている。
また、働き方改革に関し、土日に人材が欲しいがあまりいないという課題について、社
会福祉協議会も職員は 220 名おり、残業を無くす取り組みをしているが、若く子育てを
している職員はお金も必要であり、残業したい気持ちもある。兼職しましょうという政
府の方針もあるかと思うので、それを上手に使い、土日など本業に影響のない部分で働
くことを希望者の申し出に基づいて認めていくなど、市として企業への取り組みを広め
ていければ良いのではないかと思う。

委員③：以前の話であるが、早朝に他所の事業所で勤務をされ、その後当社で勤務する場合、
総計の勤務時間で労働基準の制限がある。個人では仕事をやりたくても、時間外業務の
残業代を支払うのは後に勤務をされた事業所となるといったことなど、受け入れ側の課
題がある。

委員⑦：また、育児中の家庭の働き方について、子どもを預かってくれるところを社会福祉協
議会で検討してほしいなどの声もあった。

委員③：人材について、企業間の垣根を超えた連携など上手く連携できる仕組みがあると良い。

委員⑦：管理する部門が必要だと思うので、商工会がそれを担えると良いと思う。

委員③：シルバー人材センターのように、この日の何時から人が欲しいから派遣してほしいと
電話 1 本で人材を手配してくれるような場所があると面白い。

委員⑧：現場の取材などを通じ、各施策になるほどと思う部分が多々ある。K P I 実績につい
て、「事業者連携事業者への加盟事業者数」がゼロ件なのは前回の会議でも思っていた
が切ない結果である。しかし、項目を変えなくても内容の捉え方次第では成立している
と感じている。もともとはスキー場等で働く人と農業等季節雇用者に対する連携という
ことだったかと思うが、取材するなかで、スキーのレンタル業務やスノーボードのスク
ールを行なっているのは移住者であるが、夏についてもマックアース社が働き場所を提

供している。一事業者の中で仕組みが既にできているのでマッチング件数がゼロとなっているのかと思う。また、移住施策の地域おこし協力隊の定住数に関し、5年ほど前に石徹白で白山登山道の整備をするのに同行し取材をしたが、地域おこし協力隊希望という人が参加していた。その方から、郡上はどうですか？と質問をされ、郡上に住み、仕事をしている立場から、石徹白は雪も多いが良いところですよと答えた。その後その方は地域おこし協力隊に着任、そして任期を終え結婚され、一番いい形で移住されている。石徹白については移住希望者が独自に調査し、移住先として決めてから移られており、ある意味ブランド化されていることを感じている。保育園を取材する番組も制作しているが、石徹白地区や高鷲町は子どもの数が多い。資料を見てみると、高校卒業後人口は減るが、子どもの数はそんなに酷く減少するわけでもない。決して未来が明るいわけではないが、実感としてあるので、その明るい部分を今より手厚く支援することが今後の戦略に盛り込むことではないかと思っている。

委員⑨：「放課後児童クラブの開設数」について、もともと大和北小にはあったが、大和南小にも開設され分散できた。しかし、利用希望者は年々多くなり、夏休みだけでも預かってほしいというニーズもあるが、スタッフを確保するのに苦労している。朝は7時30分前から預かり、プールにも一緒に入ったりしているので、預かる方の負担も感じている。図書館の運営には市も力を入れられ、非常に充実している。スポーツ団体に関し、子どもの数が減っても部活動数は変わっていないので、中学校は部活道の単体での存続が厳しくなっている。さらに学校規模の縮小に合わせ職員の数も減っている。以前は先生2人で1つの部活動を担当していたが、今は先生1人で1つの部活動を担当している。中学校の部活動で充実した指導を確保するためには、部活動数を今の半分にしないといけないと言われている。「小学校のスポーツ少年団の加入率」については、子どもがスポーツをやりたくても、休日を確保したいなどの親の理由によりスポーツ少年団に入らないということも聞いている。以前から聞いた話ではあるが、休日の確保も大事なことなので一概に否定はできない。そのような部分についても改革が必要かもしれない。また、教員の成り手不足について意見する。人員配置に教育委員会も苦労している。毎年、郡上市内から十数名の教員が退職するが、市内出身の教員希望者は一桁程度である。将来的に郡上市内には郡上出身の教員は僅かになり、市外の教員に来てもらわないと成り立たない状況である。何とか教員になってくれる子はいないかと教え子を誘っている。県下全体で見ても、教員採用試験の倍率が年々下がっている。教員退職者が臨時で着任してもらえらる制度もあるが、免許の更新が義務付けられ、退職後更新していない人もいることが教員の減る要因になっているのではないかと思っている。

委員⑥：自分のところにも今年度、新規就農希望者が研修に来ている。国から新規就農者支援金という制度があるが、これまでの職を捨て生活設計をする中、覚悟をして和良に移住して来ているのに、今年度は新規就農希望者が多いとのことで支援金が大きく減らされるようである。市としてもそういった方を応援してほしい。国の都合で変えられても困る。お金だけでなくいろいろな支援がほしい。K P I の成果・評価欄にある市内高校生の市内就職率について、前年度に比べこんなに落ちていることがショックであった。市

でも郡上学の取り組みにより郡上が大好きな子を育てようとしており、自分の子どもの周りでも郡上が好きという子が多いので、その成果に期待していた。何が原因なのかを検証し、市内就職への取り組みを強化してほしい。また、「スポーツを通じた青少年の健全」について、自分の娘はこれまで支援いただいたおかげで今年もインターハイに行ける。スポーツを通じ、親も子も本当に成長できている。親が面倒くさいからスポーツをしないではなく、良いことがあることもPRしていただけたら良いと思う。

3. 話題提供及び意見交換

- ・郡上の未来を創造する持続可能な地域経営 小さな拠点とネットワークの形成について
資料に基づき事務局より説明
- ・郡上北高等学校の取り組みについて（広報7月号特集記事より）
資料に基づき事務局より説明

委員：（意見等なし）

4. その他

- ・今後のスケジュールについて

5. 閉会

- ・副委員長あいさつ

（終了 21時20分）